

答申（素案）の「IV 将来を見据えた整理」に関する主な意見（抜粋・要約）
（令和3年8月から9月に意見聴取を実施）

1 県立高等学校と私学との関係について

- ・私学に負けない独自性の発揮、私学との共存や私学へ任せていく分野についても検討する必要がある。
（市町教育長）
- ・公立の学校では、より校長の裁量を高められるような仕組みをつくるのが大切だと感じる。（県立学校校長）
- ・県立高校も思い切った独自性の中で魅力ある高校づくりを進めていただきたい。（市町立中学校長）
- ・県立高校は、支援や配慮等の情報が積極的に中学校現場に伝わり、進路指導に生かされるようにしてほしい。
（市町教育長）
- ・公私による「パイの奪い合い」となることを危惧する。（県立学校教頭）
- ・県立、私立の定員を見直す議論の必要性は否定しないが、県外私学等に流れる生徒をいかに止めるかを考えるのも大事。（私立高校長）

2 県立高等学校の学校規模について

- ・規模の大小にとらわれず、特色ある教育活動を展開することで、生徒たちが自分の意思で高校を選択し、主体的かつ意欲的に学ぶことが重要である。（市町教育長）
- ・大規模校にはない小規模校ならではのメリット、魅力や特色を強く発信することで、小規模校への進学を積極的に選択する生徒を増やし、そこで学びを充実させてほしい。（市町立中学校長）
- ・地域性や規模の大小による公教育の格差や不公平感が大きな問題。県全体として、学校規模のある程度の平準化や適正化を進める必要がある。（市町立中学校長）

3 将来に向けた議論の必要性について

- ・地域に高校を残し、また適正定員の確保という視点で、規模が小さい複数の高校を一つの高校とみなした大学のキャンパスのような学びの場には賛成であるが、最終的に単に高校再編となることは避けていただきたい。
（市町教育長）
- ・小規模校の生徒が大規模校で実施されている魅力ある授業をオンラインなどで受講したり、普通科の生徒が他校の専門学科の授業をオンラインなどで受講したりできる取組も、魅力化とともに学びの機会の均等といった視点から検討をお願いしたい。（県立学校校長）
- ・中学生が4割減少しているとなると、統廃合は避けて通れない、引き延ばしできないと思う。地域の状況もみて、残す高校と、地域に3つも4つもある高校から減らすというような方向性は示してほしい。（市町首長）
- ・高校は、社会への直接の出口という視点を明確にして、ある分野に特化した学校づくりを進める高校があってもいい。「あの高校へ行けば、この学びができる」ということを明確にし、その結果、卒業後はこんな道に進めるということが「売り」にできる学校づくりをしてほしい。（市町立中学校長）
- ・県立高校の在り方を考え、改革を進めるには、人的措置や環境整備、財政的支援については一律に取り扱われる「平等」ではなく、地域差を考慮した「公平」が必要。（県立学校教頭）

4 入学者選抜の在り方について

- ・推薦選抜、特色選抜、スポーツ・文化芸術推薦選抜、一般選抜、二次選抜という異なる入試の機会が受検生に与えられていることにより、受検生の能力が多面的に評価され、また再挑戦の機会が保障されているというメリットがある。一方で、入試事務の煩雑化や長期化というデメリットも生じている。（市町教育長）
- ・特色選抜において、各校の特色を出す難しさ、問題作成にかかる各校の負担、特色選抜・一般選抜にかかる業務量の増大など、教職員の働き方改革の点から課題が大きいと感じている。現行の良さを残しつつ、課題を解決できる方法を早急に検討すべきであると思う。（県立学校校長）